

①の説明文は渡辺一史『なぜ人と人は支え合うのか「障害」から考える』からの出題です。障害をどうとらえるかについて述べた文章です。

問一は1頁上段1行目傍線1「『障害』とは何か、を考える上で、まったく対照的な二つの考え方」を説明する問題です。16行目に「これに対して」という表現があるので、ここを境に前半と後半でそれぞれ1つずつ、合わせて2つの考え方が述べられていると判断できます。前半は12行目、後半は29行目で「つまり」とまとめられているので、この2か所を使用して記述をまとめます。なお、設問に合わせて、答案の文末は「～考え方。」にする必要があります。

問二は1頁下段43行目空欄2に入るものとしてふさわしい内容を選ぶ問題です。43行目から始まる段落を読むと、空欄2には「社会モデルのすぐれた特徴」が「～につながる点」という文末に接続する形で表され、またその特徴は「さまざまな生の条件を背負った人たちを許容する社会」をもたらす可能性があるものであることがわかります。この要素を満たす答えは、ウです。ひとつ前の段落にある「社会モデルにおいては、まず社会の側が、障害者にハンディキャップをもたらす要素を積極的に取り除いていくべきだ、という真逆の発想につながっていきます。」という表現が手掛かりになります。他の選択肢は、アの障害者を「家族全員でサポートし」という点、イの「治療によって」という点、エの障害を障害者個人に付随する「個性の一部」としている点が社会モデルの特徴と一致しない、という理由でそれぞれ誤っています。

問三は2頁上段87行目傍線3「『自立生活運動』と呼ばれる社会変革のための運動」が目指すものを選ぶ問題です。84行目から始まる段落で、「自立生活運動」は障害者の、障害者施設や親元でなく地域で普通に生活したいという願いをきっかけに起こされたと説明しています。よって答えは福祉の対象として「地域」に目を向けている、アとなります。ほかの選択肢は、福祉の対象を「障害者施設」や「親元」としている点で誤りです。

問四は2頁上段93行目傍線4「社会が、障害者に『おとなしく』『けなげ』であることを強いてくる」という医学モデルの考え方に基づく社会の様子を説明する問題です。特に括弧で括られた「おとなしく」「けなげ」を言い換えて説明できるかがポイントとなります。傍線4までの本文のあらゆるところで、障害は個人で対応すべきものという医学モデルの考えが説明されており、この考え方に基づく「おとなしく」は障害を甘んじて受け入れることであると判断できます。また、「けなげ」は1頁下段52行目から始まる段落で「障害者が努力して障害を克服しようとする姿」に対しての印象であると説明されています。この2点を合わせて記述をまとめます。設問に合わせて、答案の文末は「～こと。」にする必要があります。

問五は本文全体から筆者の主張を読み取り、説明する問題です。筆者は全体を通して医学モデル偏重の社会に社会モデルの考え方を入れていくべきだと主張しているため、解答ではそのことをより具体的に表現する必要があります。1頁下段58行目から始まる段落で、より具体的な主張が展開されているた

め、ここを手掛かりに記述をまとめます。設問に合わせて、答案の文末は「～こと。」にする必要があります。

問六は空欄[A]から[D]に適切なことばを入れる問題です。[A]にはイ、[B]にはウ、[C]にはア、[D]にはエが入ります。

問七は漢字の書き取りです。楷書で丁寧に書く必要があります。

問八は本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。1 頁上段 26 行目から始まる段落とほぼ同様のことを述べているイが正解です。他の選択肢を見ますと、アでは「社会を変革することでしか」、ウでは「医学であっても決して」、エでは「絶対的な治療法が確立されているわけではない」という表現が本文の内容からずれているため、誤りです。

続きまして②の物語文の解説に移ります。高森美由紀「プリリアントなサルビアを」からの出題です。

問一は 4 頁上段 12 行目傍線 1 「ふたりの前でドアが何度も開閉する。そのたびに消毒液のにおいとさざめきがあふれ出てくる。人々がふたりを邪魔くさそうによけて出入りしていく。」が表すふたりの様子を選ぶ問題です。1 つ前の段落で、ふたりがエントランスの前に立っている様子が明らかになっているので、2 人が立っている場所を病院の建物の外としている選択肢イ・エに候補を絞ることができます。また、16 行目「ここじゃねえよな。本人どこも悪そうに見えなかったし」という台詞から、ふたりの“この場所であっているのか?”という疑問や不安を読み取ることができます。よって、正解はエです。イは「病院独特の雰囲気」に怖気づいている」という様子を本文から読み取ることができません。

問二は 4 頁下段 49 行目傍線 2 「その目が見開かれる。一瞬、バツが悪そうな顔をした。」の心情を説明する問題です。「目が見開かれる」を「驚き」、「バツが悪い」を「気まずい」と心情が説明できるように置き換え、それぞれ何に対する驚きであり、気まずさであるのかを考えます。ここはレイが秀明と壮介の存在を始めて認識した場面なので、2 人が現れたことへの驚きと解釈できます。また、その後の会話の中で、レイが草むしりをする理由を言い渋っていること、6 頁上段 133 行目で花を植える理由を「母親」と言いかけていることを考慮すると、母親のために花を植えようとしていることを知られることに対して気まずさを感じていると解釈できます。よって解答では、これらの点をまとめた記述を作成します。

問三は 5 頁上段 72 行目傍線 3 「一か所だけ、五階のちょうど草をむしっているところの正面にあたる窓だけはカーテンが開いていた。」という表現が意味することを説明する問題です。「カーテンが開いている」という表現からは、そこから外を眺めている“誰か”の存在が暗示されます。また、この直前で、レイがこの窓のあたりに意識を向けていること、5 頁下段 107 行目にレイが「いつも」草むしりをしてるとあること、先に述べた通り、レイが花を植えるのは母親のためであることを合わせて考えると、窓から外を眺めているのは入院中の母親であると判断することができます。解答は、これらのことをまと

めて記述します。設問に合わせて、文末は「～こと。」とする必要があります。

問四は5頁下段 104 行目傍線4「ちがいます、と否定しかけた壮介にかぶせて『そうです』と断言したのはレイだ。」において壮介とレイの主張が食い違った背景を選ぶ問題です。壮介が友人関係を否定、レイが友人関係を肯定しているという事実関係から、選択肢イ・ウに候補を絞ることができます。レイがおじいさんに対し、壮介たちと友人関係にあることを強調すると、おじいさんはレイに「きっと安心するだろう」という言葉をかけ、レイの母親がいるのであろう部屋の窓を見上げます。ここから、レイが友人関係を強調したのは母親を安心させるためであったという可能性が暗示されます。よって、正解はウです。イは「壮介はレイを心の底では嫌っている」というのは本文から読み取ることができません。

問五は5頁下段 121 行目傍線5「『手伝え』というレイの申し出を、秀明が承諾するまでの心境の変化を説明する問題です。傍線部の直後には、秀明が「ムッとし」た様子であることが書かれており、ここから秀明が突然の申し出に腹を立てたことが分かります。次に、6頁上段 137 行目で秀明が「よしわかった」と返事をし、手伝えることを承諾した時の心境を考えます。この直前の箇所で、レイが母親のために花を植えたいと考えていることが明らかにされます。また同時に、そのために手を泥だらけにし、たくさんの虫刺されの跡を作りながら励んでいるものの、ひとりでは思うように作業が進まない様子も明かされます。この状況描写のすぐ後で秀明から承諾の返事が出たことを考えると、母親のために苦労しているレイに対し、協力しようという共感の念が湧いたと解釈することができます。

問六は鳥類に関連する慣用句の問題です。一はイ、二はエ、三はオ、四はア、五はウです。

問七は空欄A～Dに適切な語句を入れる問題です。Aがイ、Bがウ、Cがエ、Dがアです。

問八は本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。5頁上段90行目でおじいさんが現れてから5頁下段119行目で立ち去るまでの描写に注目すると、おじいさんがレイを気にかけていること、レイに道具を貸していること、レイが花を植えようとしている土地はおじいさんのものであることが分かります。よって正解はエです。アは「お母さん」の様子が本文に書かれていない、イは「極力関わらないようにしている」が本文と食い違う、ウは衛生チェックを書き換えたのは壮介ではなく秀明であるという点で間違いです。